

第 184 回 東葛しぜん観察会

こんぶくろ池の花と虫と湧水

長谷川 依子 (松戸市)

日 時:2023 年 5 月 14 日(日)9:00~12:00 天気:曇り一時小雨

場 所:一号近隣公園~こんぶくろ池自然博物公園(柏市)

参加者:一般 29 名(内、子ども 7 名) 指導員 13 名

指導員:川瀬・龍門・長谷川、大貫,小島,鈴木護,高橋重,林,平田,前田,三嶋,梁川,山口

(下線は担当指導員)

今回はスマートシティとして開発された柏の葉キャンパス駅から、計画的に残されたこんぶくろ池の森まで歩いて自然を感じよう！がテーマの観察会。江戸時代は幕府直轄の牧、明治時代は薪炭林、昭和は陸軍飛行場、戦後は米軍基地、その後 2001 年までは名門ゴルフ場として利用されてきた歴史の地であることを、開発前と TX 線開発後の写真を見比べながら説明し、スタートした。

都会的な 36 階のタワーマンションにイソヒヨドリの声が響く中、ヤマボウシの花をルーペで観察しながら進む。10 分程で到着した一号近隣公園入口では、満開のセンダンの花を目と香りで楽しみ、「夏は来ぬ」4 番に棟として歌われることを伝え、皆で合唱。森の中に足を進めると様相は一変し、ニワトコ、スイカズラ、マユミ等が咲き、2 つの池にはハンノキやカササゲが涼し気に揺れる。ゴルフ場時代の植栽か大きなヒマラヤスギの新旧入替わりの松葉と鱗片とで園路は茶色の絨毯だ。

5分程でいよいよこんぶくろ池の森に入ると、クサノオウ咲き乱れる中、林縁ではムシが次々に見つかる。特に幼虫・成虫のアカスジキンカメムシは、子どもも大人も参加者皆を笑顔にしてくれた。

野馬土手や地金堀など特徴のあるこんぶくろ池だが、やはり一番は標高 20m未満のこの地には薄い関東ローム層の下に水を通しにくい常総粘土層があるため、平らな大地に溜まった雨水が僅かな窪地のこんぶくろ池や弁天池に湧き出す珍しいタイプの湧水であることだろう。この水は手賀沼源流の1つで、合流しながら利根川、太平洋へと流れていく。湧水による冷涼な環境や湿地による貧栄養・酸素不足で成長が阻害されたこと等の理由から、暖温帯の千葉県にあってここには冷温帯の植物が生き残っている。

園内はヒメコウゾやクワが鈴生りで、ガマズミやマムシグサに目を留めたり、ウメドキやズミを観察したり。サワフタギにいたシロシタホタルガの幼虫を小2の男の子が発見。彼は大人に見えない沢山のムシを見つけてくれた。また森のシャンデリア・エゴノキのエゴツルクビオトシブミが小さな体で上手に落文を作ることに皆さん感心しきり。ゴマギとクサギ、サンショウとイヌザンショウ、ヤマコウバシの香りの観察も楽しんだ。池の畔では、しっとりとした空気の中で新緑の木々や対岸のヌマガヤを観ながらしばし休息。その間、「こんぶくろ」の名の由来や伝説の民話を 2 つお話した。

弁天池先の林地ではナラ枯れの現実を目の前にして、2020 年から 200 本以上の被害が確認され柏市により伐採やネット巻きの対策が取られていることを、管理団体 NPO による落葉樹育成の様子と共に見て頂き、人間の生活文化の変化に伴う状況でもあることを合わせて考えてもらった。

今回は子ども班を作らず家族連れ混合の班構成とした。サブ担当指導員協力のお陰だが、若い人の素早いムシの発見や気づきが、他の参加者への刺激や関わりとなり、有意義だと感じた。参加者の感想は、想像以上の自然の豊かさに驚いた、植物と昆虫の関係が分かって面白かった、香りの観察は楽しい経験等々。途中で少し雨に降られたものの、この雨水こそがこんぶくろ池の源。異なるテーマとアプローチで同じ場所での観察会は変化できることを実感した。



林縁に咲くスイカズラやイボタノキを観る